

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	美容室（店長）	来客数の動き	・景気は最悪と言われているが、3か月前と比べて多少良い。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・仕入値は原油が高騰していた3か月前からすると落ち着いているが、客足が遠のいており、買物に気持ちがないように見受けられる。
		商店街（代表者）	それ以外	・円高や株価下落、日本を代表する大企業の雇用問題、政治への不信感等、将来への不安材料が多く、消費者は自己防衛に走っている。景気は変わらず非常に悪い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・先月と変わらないが、客は本当に必要な物以外は積極的に買物をしない。また、価格に対しても更に見方が厳しくなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・初商い、全店特商共に来客数が前年割れとなった。レジ客数も前年をやや下回り、客の買物への慎重な姿勢が続いている。福袋、ギフト商品セール等、お買い得感が高い商品への関心は高いが、目的買い以外の買い回りは少なく、会場から帰宅する姿が目立つ。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品という分野のせいか、世間で言われるような低迷感はない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は売上が前年比2%増、販売量は同3%増となった。衣服住は売上が同4%減、販売量が同3%減である。全体では売上が同1%減、販売量が微減である。客の実用品と非実用品などの買い分けがはっきりしてきた。特に年初の福袋等、高額品の動きが悪いが、その後の動きは以前と変わらない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・現在は生活防衛の観点からか、生鮮食品、加工食品共に前年を超える売上があるが、客単価は減少している。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・依然としてタスポ効果が続いており、売上はそれぞれ保たれているが、たばこ消費を除けば前年割れが続いている店舗が多くなっている。手放して喜ぶことはできず、厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・1日の来客数は前年と変わらないが、客足のピークが若干小さくなった。客が時間を分散して来店しているか、もしくは客層が変わってきているのが原因である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客は来店するが買いたいという素振りが見られない。ちらっと中を見て素通りする客が増えた。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・クリアランス初日は多数の客が押しかけ、購買意欲もおう盛で景気が戻ったかのようなようであったが、勢いがあつたのは初日だけで、翌日からの売上は前年割れとなった。セールをしても全体の来客数は増えていない。客は洋服の購買を我慢しているようである。
		乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・来客数は変わらないが、購入等には慎重になっている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・前年から販売量の動きは変わらない。若干、来客数の増加はみられるが、購入件数が少なくなっている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・今年は正月三が日から成人式まで例年以上に携帯電話販売台数が多かったが、中旬以降は販売数も低迷し、月間累計では前年を若干下回る。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・今月の販売量が、冬季ボーナス商戦前と同じレベルまで低迷している。
ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・客の出足が相変わらず悪い。約半年前より来客数の前年割れが続いている。		
設計事務所（所長）	販売量の動き	・民間の受注が減少している一方、行政が予定している分を前倒し発注しており、売上は変わらない。		
やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年1月は年末年始でかなり金銭的に無理をしているため食品に対する余裕が全くない。また消費者はリストラ、失業などで収入が少なくなり、購買力がかなり落ちている。毎日来ていた客が2～3日に1度になっている。	

商店街（代表者）	販売量の動き	・客のバーゲン待ちという傾向は以前からあったが、寒さに助けられて購買が戻っている感がある。しかし日によって大きく違う。
商店街（代表者）	販売量の動き	・周りの店主の話も聞いても、売上が前年比30%減とのことで、厳しい状況である。
商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量も悪くなっているが、単価も一段と低くなっている。業種にもよるが、一段と過当競争に陥っている。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・まるっきり売れていない。半月以上たって初めて来店する客もいるほどで、来客数が本当に少ない。
一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・客は必要な時しか花の購入をしない。退職者への贈り物需要や開店需要等で、今月は何とかしのいでいる。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・客は前年にもらった贈答品がまだ残っているのか、今年に入っても売上が伸びない。来客数も減少し、得意先からの注文も減ってきている。
百貨店（企画）	来客数の動き	・来客数、平均滞留時間共に下降傾向に拍車が掛かっている。来客数は4ポイント、平均滞留時間は2ポイントほど通常月を下回っている。平均客単価もこれまでは前年実績を維持出来ていたが、直近では前年割れである。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・報道の影響もあり、来店する客ですら消費には非常に慎重になっている。価格訴求の商品に対しても、客は購買までかなり悩んだ上で買わないことが多い。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・先行きが不透明なせいか、客は余計な物は買わなくなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・寒い割に冬物衣料品や暖房用品等の動きが悪く、処分品もなかなか売れない。
スーパー（店長）	それ以外	・近隣の大型店がポイントセールで集客をするため、平日の売上が厳しい。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品などの冬物処分を早め、割引率を上げているが、客の反応は今一つである。客は本当に必要な物しか買わない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・年末年始はコンビニエンスストアにとって一番の売上を確保する時期であるため、客向けに感謝祭と銘打って販促を実施したが、効果を得ることは出来なかった。客の動きから、現在の景気後退の状況が目に見えて感じられる。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店は前年比101.8%、コンビニエンスストアは同96.7%、ローカルスーパーは同98.2%となった。売れ筋商品の価格帯を100～120円に落として販売したが、結果として前年実績には届かなかった。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・今はセール時期であるが、たとえ価格が下がっていても客は買上点数を増やさない。また、福岡市の中心部に立地しているにもかかわらず、新年早々こそ来店客が多かったものの、全体として来客数が減っており、非常に危機的な状況にある。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・初商いはそこそこの売上であったが、それ以降は前年比10%以上の減少となっている。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・3か月前の時点でも販売量は前年を下回っていたが、今月も前年に比べ販売量が減っている。
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・初売りから来客数、客単価共に厳しい。毎月行っているキャンペーンについても同様である。シーズンである学童機の売行きも良くない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は前月に比べ下がっているため、客の購入マインドは変化がないが、カーケア商品の購入については慎重である。また、客との会話において、雇用への不安があるとの声が聞かれた。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・11月下旬頃から、宴席の問い合わせが例年に比べ少ない。また、200名規模の新年会が1か月前にキャンセルとなった。これまでにないことで、景気は悪くなっている。
観光型ホテル（営業担当）	お客様の様子	・旅行代理店からの送客が少なくなる反面、国内はもとより海外からのインターネット、電話での直接申込が多くなっている。

	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・業務出張客の宿泊が激減している。単価も2か月前に提示していた価格では予約が伸びないため、商品価格の値下げを一部商品で行ったが、動きは鈍い。レストラン等もゆっくりではあるが、来客数が減少傾向にある。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・12月よりやや来客数は増えたが、海外リゾートやヨーロッパなどの高額商品は売れず、近場の韓国の人気が目立つ。国内の同価格帯の沖縄や関西のテーマパーク、学生旅行も韓国に流れている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ここにきて客の乗車率が大変悪い。売上も今までになく落ち込んでいる。夜の繁華街では、店をやめていく女主人が大変多くなっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・選挙がある時期はどうしても人の流れが悪くなるので、売上が落ちている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・年明けから人の動きが悪く、昼夜通じて売上は例年の3分の1である。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今は年始の挨拶回りがほとんどないので、乗客数が減っている。
	ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・客のなかでも、特に女性が落ち込んでいる。
	競輪場(職員)	販売量の動き	・この時期の発売額は、例年であれば前月比20~30%程度増加するが、今年は1けたの伸びにとどまっている。
	美容室(店長)	来客数の動き	・周辺に空き店舗が増えてきて、固定客が減少してきている。
	住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・住宅展示場への来場者数が伸びない。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・土地投資、売買等、土地取引の動きが前月と比べてほとんどなく、成約しない。客からの問い合わせの数も非常に少なくなってきた。
悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・税金の問題等から、特に年配客の財布のひもが固い。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・周辺でもかなりの数の閉店が出ており、空き店舗が目立つ状況になっている。
	商店街(代表者)	それ以外	・前年の歳末セール以来、来客数、販売量、単価すべてが前年を下回っている。
	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・消費者の買い控えは大変厳しい状況であり、テナントの出店意欲も著しく悪い状況が続いている。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・衣料品や高額品を中心に販売量は一段と減少している。前年末まで好調だった食品部門も前年割れとなった。クリアランスセールの効果も限定的で、消費は一段と冷え込んでいる。
	百貨店(営業担当)	それ以外	・来客数も前年より10%ほど落ちているほか、単価も販売量もかなり落ち込んでいる。価格も訴求力がなく、客は必要な物だけを買っている。
	百貨店(営業担当)	それ以外	・中心市街地への客の流入がより減ってきている。周辺商店街の空き店舗が更に増えている。当店への来客数も減少している。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・購買意欲のある客が非常に少ない。まず商業施設、飲食店に訪れる客の数が目に見えて減少している。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・来客数は3か月前に比べてほぼ変わらないが、売上は前年から1割減少している。特に衣料品関係の動きが良くない。食品の売上もここにきて来客数と比例して若干落ちており、今のところ良い部門はない。ただ、客単価、1品単価はさほど落ちていない。
	百貨店(営業推進担当)	販売量の動き	・業界全体が厳しい状況である。前年比10%近く売上を落としている店舗がほとんどである。
	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・近郊百貨店の閉店セールの影響は小さいと思われるが、景気悪化による消費マインドの低迷で、来客数が前年比87%、売上が同86%と大きく前年を下回って推移している。特に宝飾関連では同70%となっているほか、婦人衣料も同80%台前半と苦戦が続いている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・景気の悪化が日を増すことに厳しくなっており、消費者の購買意欲にも表れている。食品はとまかく衣料品の売上は大変厳しい。

スーパー（店長）	お客様の様子	・初売りは例年通り福袋を含めスタートしたが、ボーナス減によりＡＶ、テレビゲーム関連が前年より大幅に減少した。特に液晶テレビ、ビデオ関連等、高単価商品が前年比15%減となったほか、テレビゲーム等の人気商品も同10%ほど前年を下回り、苦戦した。日々一段と客の財布のひもは締まってきており、必要な物以外はますます買わなくなっている。		
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・来客数も少ないが、たまに来店しても値段を見るだけで全く購入する気がない。クリアランスセールも効果がない。		
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・数年前から徐々に来客数は減ってきているが、前年から減り方が顕著である。		
家電量販店（店員）	販売量の動き	・どんどん悪くなってきている。特に大型家電商品等の値の張る物の動きが非常に悪くなっている。		
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・壊れたり、事故のために買い換える客しか今はいない。		
その他専門店【書籍】（店長）	販売量の動き	・買上額も販売量も明らかに減少している。また、短期契約社員の募集に対し、今までには無かったほどの数多くの応募者があった。急激な経済状況の悪化が原因である。		
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・NHK大河ドラマが終わり観光客が少なくなったが、中国、韓国、台湾からの客も少なくなった。正月を過ぎてからはかなり減っている。		
スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は過去最低の来客数で、特に週末営業の落ち込みがひどい。		
その他飲食【居酒屋】（店長）	来客数の動き	・1月になってから人通りがめっきり少なくなり、店も開店休業状態である。		
都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・大手製造業の減産による人員削減が続いており、客の節約傾向が増している。そのためか、価格競争が激化し、来客数が減少している。		
都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・市内の他のホテルも宿泊稼働は軒並み前年割れを起こしている。レストランも、客の外出控えて来客数が非常に悪い。		
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・例年の団体客も予定通り入っているし、新規の団体客も入っているが、個人客の予約が圧倒的に減っており、単価も落ちている。		
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・景気悪化の影響で、法人需要が著しく減退している。経費節減の傾向は今後も強まる。		
通信会社（管理担当）	お客様の様子	・債権の回収率が悪くなっている。		
通信会社（総務担当）	お客様の様子	・景気の悪化による雇用調整の影響もあり、新規の来客数が減少している。また、失業者の増加のせいか、加入者の解約も多く、全体の加入者数の増加が見込まれない。		
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の購入が少なくなってきた。		
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・1月も宿泊、ゴルフ場共に平日に苦戦した。団体客の引き合いと外国人客は減り、国内の個人旅行は横ばいである。		
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今が底だと感じているが、これ以上悪くなれば大変な状況になる。今の状況であればリストラムせず何とかが対応できる。
	やや悪くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年1、2月は厳しいが、今年は特に原料不足と販売不振で、予想よりも厳しい数字になっている。特に不況モードで値下げ要求もあり、若干影響がある。
		農林水産業（営業） 窯業・土石製品製造業（取締役）	受注価格や販売価格の動き 競争相手の様子	・製造業、機械系に比べて食品系はそこまで落ち込んでいない。 ・メーカーは受注量が減っている。中小企業は全体的に業績が悪い。決算も下方修正する企業が多く、悪化している。消費も伸び悩んでいる。
輸送業（総務担当）		取引先の様子	・全体の出荷量が少なくなっている。	

	通信業	受注量や販売量の動き	・受注、販売量共に先が見えにくくなってきた。当社の業種は、来年度の受注計画がゼロと言う企業も出てきた。
	通信業（経理担当）	それ以外	・不況の影響を直接受けない業種であるため、不景気を自分自身で感じることはない。ただ、会社の人事部門の話では、来期にかけての採用は当社にとって有利に動いているという。不況で雇用が流動化している影響である。
	金融業	取引先の様子	・製造業の悪化が目立っている。需要の減少に対し4割の減産などで対応している。雇用調整もっており、消費などへの影響は大きいと考える。個人客の動きも鈍く、株価の下落により投資は控える傾向にある。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・コンサルティング関係の仕事は極端に減る傾向にある。
悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前まではある程度の価格で推移したが、今年に入り非常に価格が下がったので、厳しい状況である。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・取引先は在庫調整などで全く受注を出してくれない。中国生産が間に合わなかったり、小ロットで中国で投入ができなくなったものの追加受注が来るくらいである。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・サブプライムローン問題以降の急激な景気下降の影響でゼネコン、デベロッパーの倒産が相次ぎ、この業界にかかわる内装業、設計などの業者も連鎖倒産が相次いでいる。インテリア業界全体の信用不安が増大しつつあり、取引に神経を使う状況である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・正月明けから受注関係が思わしくなく、この先どう対応していこうかと苦慮している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ITや自動車分野等、いずれも受注案件がない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月、1月と新規受注が全くない。発注先が当社より先に値下げを行い、希望退職を募集している。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連では半導体、コネクタ関連のすべての面で受注が大幅に減少している。大手、中堅企業も非常に厳しい状況で、今後も見通しが全く立っていない。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・北米の不景気により、客先の生産が減少したことが影響し、悪い状況である。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が全くないという状態がしばらく続きそうである。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新しい案件の見積依頼が全くない。同業他社も同様である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・1月は例年荷動きが悪い月であるが、ここ数年の中でも今年は非常に悪い。紙、パルプ、古紙、飼料、雑貨等、すべての業種で物が動かなくなり、メーカーは減産計画を打ち出している。かなり緊急的な悪い状況であり、事務所でも電話が鳴らない時間があるくらいである。
	金融業（営業職渉外係）	取引先の様子	・売上減や収益面が厳しくなり、金融機関からの資金調達・返済が困難になり倒産する企業が増えている。所有不動産などの売却処分などにより資金調達を行っている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地区は土木建設業者のかなり多い地区であるが、公共工事の発注減や、それ以外の業種についても景気の悪化による個人消費の低迷から、ここにきてかなりひっ迫している企業が出てきている。今、緊急保証の申込がかなり出ており、当面の資金繰りについては問題ないが、4月以降の資金繰りについては厳しくなる企業が出てくると思われ、予断の許さない状況である。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先である年商1億円未満の大半の中小企業は、景気の先行き不安定化を懸念し、資金繰り安定化のため、保証協会保証の緊急対策制度融資の利用を検討している。3か月前と比べ、中小企業の経営者に資金繰りに対する危機感が感じられる。	
	不動産業	競争相手の様子	・マンション販売業者の倒産、民事再生と悪いニュースが増えている。また、建築中でもこの様なケースが起きている様子で、下請業者、マンション購入者への影響が考えられる。	
	新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・例年出稿量が増える正月時期だが、不況の影響を受けて広告出稿を控える企業が相次いだ。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・販売価格39,800円の入手困難な焼酎を10本並べているが、全く売れていない。前年同時期には完売しており、景気は悪くなっている。	
	その他サービス業	競争相手の様子	・建設関係は、米国のサブプライムローンの問題から県内の不動産業界の建設需要が冷え込み、着工が減少している。公共事業は、発注件数が減少しつつあるなかで、コンサルタント関係の調査・設計の業務が減少しつつある。地方自治体の入札でも、最低価格の設定がない場合は予定価格の3分の1以下で落札している業者がいる。	
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・リース、割賦の月中契約額が3か月前に比べると48%台まで落ち込んできており、年明け以降更に厳しさが増してきている。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない			
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・年明けに内定取消しが出てきている。入社までにまだ出てきそうな状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告は、派遣切りの影響もあり製造業が激減しているが、介護や看護師など医療福祉分野の求人の需要はまだ高い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の月間有効求人倍率が0.69倍となったが、12月に0.6倍台となったのは平成17年の12月以来3年ぶりとなる。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・大学4年生向けの求人情報はほとんど届かない状況である。また、大学3年生向けの求人件数は例年に比べ極端な落ち込みはないものの、採用数が抑え気味であったり、未定という企業もあり、就職環境の厳しさは更に高まっている。
悪く なっている		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・海外向けの半導体、電子部品の会社の生産が減少している。雇用調整が進んでおり、3月末が最悪の状況になる。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・正社員、非正規社員の人員整理も多く出てきている。失業者を受け入れられる企業も多くないのが現状である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・半導体関連会社だけでなく、業種を問わず事務の案件が激減している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・1月に入ったとたん業務請負業界、派遣業界などアウトソーシング業界全般に受注案件がないため、求人を手控えている。求人情報誌を発行している当社にも、かなりの影響が出てきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人業況の悪化とともに、求人広告の低迷に拍車がかかっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・年が明けてますます求人広告が減ってきている。特に派遣社員を募集する求人広告は、現在では皆無になった。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業を中心とする派遣・期間社員の雇止め等の事案が発生している影響で、新規求職者が増加している。一方、新規求人数は減少傾向が続いており、雇用環境は悪化している状況にある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数の状況を見ると、前年比50.7%増と大幅な増加となっている。また新規求人については、前年比18.2%減となっている。

職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・12月の新規求人数は3か月前に比べ26.9%減、前年比で27.6%減と大幅に減少している。また、派遣会社からの派遣契約期間の中途解除、不更新、事業所の閉鎖、倒産による離職者の発生などの相談が増加している。
民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・契約途中での派遣終了が1割以上増加している。また、半導体関連企業で1～2月に3～10日の一斉一時休業の申入れなども増加している。休業手当の支給増となるものの、客からその補償はなく、採算面で厳しい状況である。
民間職業紹介機関（支店長）	周辺企業の様子	・製造業を中心とした雇用調整が事務系派遣労働者にも急速に波及している。減産、休業、支店・営業所の撤退等により、人材派遣市場そのものが縮小している。
学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・内定取消し若しくは内定辞退の強要が出始めている。